



東日本大震災から4年以上が経ちましたが、被災地のペットたちは今もお過酷な状況にあります。被災地でとり残されたペットたちは、福島県飯館村だけでも約600匹以上とのことです。

避難先から一時帰宅し、短い時間でもペットと触れ合える飼い主もいれば、選択の余地なく諦めざるを得ない飼い主もいるそうです。

また、愛護団体が給餌などのボランティアに通っているもの、現地へ足を運べるのは1週

間に1度ほどで、その間、とりの子たちが増え続ければ、駆除されたペットたちは空腹に耐えているそうです。雪に閉ざされる冬場はもっと過酷で、犬や猫たちは寒さに震えながら、冷たい水を舐めて飢えをしのいでいるそうです。

過酷な状況のペットたち

東日本大震災で放置のままに

ボランティアによってペットたちの避妊、去勢手術も行われていますが、すべての犬猫の手術には至らず2代目3代目と繁殖し、野生化している頭数を把握するのはほぼ不可能のことです。このまま野生化したペット

なりませんが、そのような毎日が続いているのです。

原発は自然を汚染し、多くの人たちから普通の暮らしや美しい故郷を奪ってしまいました。

原発の被害を受けている犬猫たちは何も言いませんが、一部の利己主義な人間の犠牲になるのは、いつも子どもたちや犬猫、動物たちばかりです。いまだ後始末もできず、苦しんでいる人や動物たちを無視して、日本はどこへ進もうとしているのでしょうか？

(福澤 智子)

ふくざわ・ともこ NPO
法人ドッグレスキューしお
んの会代表